

# 2016年 梅雨のまとめ

平成28年9月1日 新潟地方气象台

## 1 梅雨入り・明けの時期

事後検討（注1）による2016年の梅雨入り・明けの時期（注2）は表1のとおりである。

表1 今年の梅雨入り・明けの時期

地域名	梅雨入り		梅雨明け	
	今年	(平年)	今年	(平年)
沖縄	5月16日ごろ	(5月9日ごろ)	6月16日ごろ	(6月23日ごろ)
奄美	5月16日ごろ	(5月11日ごろ)	6月18日ごろ	(6月29日ごろ)
九州南部	5月24日ごろ	(5月31日ごろ)	7月18日ごろ	(7月14日ごろ)
九州北部	6月4日ごろ	(6月5日ごろ)	7月18日ごろ	(7月19日ごろ)
四国	6月4日ごろ	(6月5日ごろ)	7月18日ごろ	(7月18日ごろ)
中国	6月4日ごろ	(6月7日ごろ)	7月18日ごろ	(7月21日ごろ)
近畿	6月4日ごろ	(6月7日ごろ)	7月18日ごろ	(7月21日ごろ)
東海	6月4日ごろ	(6月8日ごろ)	7月28日ごろ	(7月21日ごろ)
関東甲信	6月5日ごろ	(6月8日ごろ)	7月29日ごろ	(7月21日ごろ)
<b>北陸</b>	<b>6月13日ごろ</b>	<b>(6月12日ごろ)</b>	<b>7月19日ごろ</b>	<b>(7月24日ごろ)</b>
東北南部	6月13日ごろ	(6月12日ごろ)	7月29日ごろ	(7月25日ごろ)
東北北部	6月13日ごろ	(6月14日ごろ)	7月29日ごろ	(7月28日ごろ)

北陸地方（新潟県・富山県・石川県・福井県）の今年の梅雨入りの時期は「6月13日ごろ」で、「平年並」の梅雨入り（平年並の範囲は6月8日～14日）であり、昨年（6月19日ごろ）より早かった。また、梅雨明けの時期は「7月19日ごろ」で、「平年並」の梅雨明け（平年並の範囲は7月19日～27日）であり、昨年（7月25日ごろ）より早かった。

北陸地方の梅雨入りの時期は、事後検討の結果、当初発表日(6月13日ごろ)で確定した。

北陸地方の梅雨明けの時期は、事後検討の結果、当初発表日(7月22日ごろ)より3日早い7月19日ごろに確定した。梅雨明け当初発表日の前後は、19・20日と日照時間が5時間以上の好天日が2日続き、21日に福井県を除き日照時間が5時間未満となったが、気圧の谷の影響で雲が広がる日もあるが、高気圧に覆われて晴れ間が出る日が多くなる見込みから7月22日ごろを当初発表日とした。7月25日から7月28日にかけて湿った空気の影響で雨が降り、日照時間も5時間未満となったが、梅雨期間中の日照時間5時間未満の日数の継続は短く、7月19日以降は雨の降った日もあったが、日照時間が安定して多くなった。このような天候経過から7月19日ごろが適当であると判断した。

注1：梅雨入り・明けの時期は、過去の実況と数日から1週間程度の天候予想に基づいて、「梅雨の時期に関する北陸地方気象情報」として速報的に発表（当初発表）する。後日、天候の経過を考慮して再検討したうえで確定する（事後検討）。記録として残るのは、この事後検討の値である。

注2：梅雨の入り・明けには平均的に5日間程度の遷移期間がある。その遷移期間の概ね中日をもって「\*\*日ごろ」と表現する。

## 2 北陸地方の梅雨の時期（6月～7月）の降水量

北陸地方の梅雨の時期（6月～7月）の降水量平年比は91%で、「平年並」の階級となった（平年並の範囲は85～117%）。なお、1946年以降で6月～7月の降水量が最も少ない年は1994年（平年比36%）で、最も多い年は1964年（平年比175%）である。

各地の梅雨の時期（6月～7月）の降水量は表2のとおりである。6月は、新潟県（新潟・相川・高田）、石川県・輪島、福井県・敦賀でそれぞれが平年より「少ない」階級となった他は「平年並」の降水量だった。北陸地方平均としては「平年並」の降水量となった。一方、7月は、福井県・福井で平年より「少ない」階級となり、富山県・富山、新潟県・高田で平年より「多い」階級となった他は、「平年並」の降水量となった。北陸地方平均としては「平年並」の降水量となった。

また、同時期の最大日降水量、最大1時間降水量、最大10分間降水量は表3のとおりである。

表2 梅雨の時期の降水量

地点	6月		7月		6月～7月合計		
	降水量 (mm)	平年比 (%)	降水量 (mm)	平年比 (%)	降水量 (mm)	平年値 (mm)	平年比 (%)
新潟	73.5	57	194.5	101	268.0	320.0	84
相川	79.0	61	194.5	113	273.5	300.8	91
高田	102.0	70	405.5	193	507.5	355.9	143
富山	148.0	81	320.5	133	468.5	423.0	111
伏木	137.0	81	169.5	73	306.5	401.5	76
金沢	200.0	108	160.0	69	360.0	417.0	86
輪島	107.5	66	176.0	87	283.5	365.2	78
福井	152.5	92	104.5	45	257.0	399.9	64
敦賀	132.0	80	163.5	84	295.5	361.5	82

表3 梅雨の時期の最大日降水量、最大1時間降水量、最大10分間降水量

地点	最大日降水量 (mm) (月日)	最大1時間降水量 (mm) (月日)	最大10分間降水量 (mm) (月日)
新潟	51.5 (7.27)	23.5 (7.27)	7.0 (7.27)
相川	83.5 (7. 3)	27.0 (7. 3)	11.0 (7.13)
高田	137.5 (7.26)	60.0 (7.27)	15.5 (7.27)
富山	103.5 (7.13)	44.5 (7.26)	19.5 (7.13)
伏木	64.0 (7.26)	18.5 (7.26)	11.0 (7.26)
金沢	44.0 (6.26)	23.0 (6.25)	9.0 (7.13)
輪島	44.5 (7.26)	18.5 (7.26)	11.5 (7. 3)
福井	39.5 (7.13)	25.5 (7.13)	9.0 (7.13)
敦賀	85.5 (7.26)	24.0 (7.26)	6.5 (7.26)

(注) 値の横に)や]がある場合には、使用したデータに欠測等が含まれていることを示す。

)付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができるが、]付きの値(資料不足値)については、統計日数(統計に用いた品質が十分な日数)を気象台等に確認して、品質を確かめてから使用されたい。

### 3 梅雨の特徴

平成28年の梅雨入りは、沖縄地方、奄美地方で遅かった。一方、九州南部、九州北部、中国、近畿、東海、関東甲信の各地方で早かった。四国、北陸、東北南部、東北北部の各地方は、平年並だった。

梅雨明けは、沖縄地方、奄美地方でかなり早かった。一方、東海、関東甲信、東北南部の各地方で遅かった。そのほかの地方は、平年並だった。

梅雨の時期の降水量（6～7月。沖縄と奄美は5～6月。）は、九州南部でかなり多く、四国地方で多かった。一方、関東甲信地方と東北南部で少なかった。その他の地方は、平年並だった。

### 4 北陸地方の梅雨の経過

#### (1) 6月の経過

上旬は、低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は短い周期で変わった。

中旬は、高気圧に覆われて晴れ間の出た日もあったが、気圧の谷や前線の影響で曇りや雨の日が増え、日照時間も減少しはじめたことから、6月13日ごろに梅雨入りした。

下旬は、高気圧に覆われて晴れた日もあったが、低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多かった。

6月の平均（合計）と旬別の平均気温・降水量・日照時間の平年差（比）と階級

北陸地方平均	6月	上旬	中旬	下旬
平均気温平年差	+1.0	+0.1	+2.5	+0.4
階級	高い	平年並	かなり高い	平年並
降水量平年比	77%	22%	80%	92%
階級	平年並	少ない	平年並	平年並
日照時間平年比	114%	122%	110%	107%
階級	多い	多い	平年並	多い

北陸地方平均とは、北陸地方にある気象官署及び特別地域気象観測所（9地点）ごとの平年差（比）を平均したものである。

#### 北陸地方気象官署及び特別地域気象観測所（相川、高田、伏木、輪島、敦賀）における6月の主な月間気象要素の累年極値および順位（3位以内）更新一覧表

##### ・月平均気温高い方から

月	順位	地点名	月平均気温	平年差	これまでの最高 （西暦年）	統計開始 （西暦年）	平年値
6	3	輪島	21.0=	+1.4	21.7 (1979)	1929	19.6

順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

・月降水量および月間日照時間の累年極値および順位(3位以内)の更新はなかった。

## (2) 7月の経過

上旬は、高気圧に覆われて晴れた日もあったが、梅雨前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多かった。

中旬は、低気圧や梅雨前線の影響で雨の降った日が多かったが、期間の終わりには高気圧に覆われて晴れた。日照時間も増加しはじめたことから北陸地方は19日ごろ梅雨明けした。

下旬は、高気圧に覆われて晴れた日が多いが、期間の中頃には低気圧の影響で雨となり、大雨となった所もあった。期間の終わりも山沿いでは大雨となった所があった。

7月の平均(合計)と旬別の平均気温・降水量・日照時間の平年差(比)と階級

北陸地方平均	7月	上旬	中旬	下旬
平均気温平年差	+0.7	+1.8	+0.3	0.0
階級	高い	高い	平年並	平年並
降水量平年比	100%	92%	65%	194%
階級	平年並	平年並	平年並	多い
日照時間平年比	108%	87%	127%	110%
階級	平年並	平年並	平年並	平年並

北陸地方平均とは、北陸地方にある気象官署及び特別地域気象観測所(9地点)ごとの平年差(比)を平均したものである。

北陸地方気象官署及び特別地域気象観測所(相川、高田、伏木、輪島、敦賀)における7月の主な月間気象要素の累年極値および順位(3位以内)更新はなかった。